

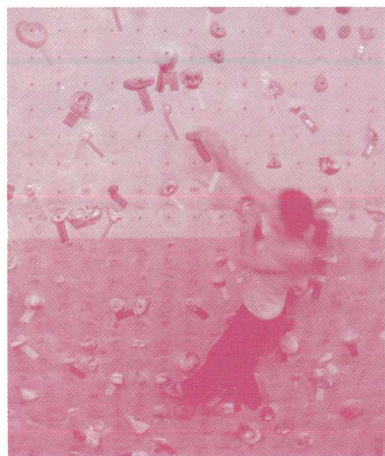
## 6. Yellow Brick Daycare Program

この施設は、子育て支援を目的として、使用されていない学校の校舎を市が買い取り、1歳から5歳までの子供を預かっています。アメリカでは就学までの子供の支援を国としてはしていません。働く女性のために、この施設は大きな役割を果たしています。可愛い子供の笑顔が印象的でした。



## 7. 芸術家支援施設

文化と芸術を大切にするアスペンでは、芸術家が経済的な負担をせずに済むようにと市が所有する建物の一部を貸して制作活動をさせています。こうしたことが芸術家をアスペンに根付かせる要因の一つになっています。



## 8. 懇親会

アスペン最後の夜、懇親会が催されました。アスペン市の3代の市長と市の関係者数名が出席され、和やかな雰囲気楽しいひと時を過ごしました。京都からは、銘品和東茶を持参し、お点前が披露されました。お茶には水が大切です。アスペンの水は美味しく、お茶の渋みと苦味と甘味がよく調和し、和服の接待と共に大いに楽しんでいただきました。この心の繋がりが両市の今後の関係をより深めることを願いつつ、名残を惜しんだことでした。



## 9. 終わりに

アスペン市長からお礼状を頂きました。今回の訪問を大変喜んでくださいました。私たちが京都とアスペンを結ぶ歴史の繋がりをしっかりと体験することが出来ました。今回のアスペン市との交流により、観光を主産業とする二つの都市に共通する問題を考える機会を得たことも大きな収穫でした。

旅を終えた今、私たちは、アスペンと京都の繋がりを大切に、110余年前の三人の先達の動きに思いを馳せ、これを学びこれを活かし、これを次の世代に伝える責任を強く感じています。

21世紀に生きる京都の女性として、京都議定書や水フォーラム開催のこの地から、温故知新の心を忘れず、水の文化の大切さを広く日本中へ、更に世界中へ発信して行きたいと思います。

アメリカ・デンバーの日系新聞「コロラド事情」に今回のアスペン訪問の記事が写真入りで大きく取り上げられました。



主催団体 海外研修KYOのあけぼの会  
京都商工会議所女性会

参加者 田中田鶴子 高橋 圭子  
森 マリア 武田 公子  
大橋 嬉子 永田 朝子  
田淵 数江 松石三重子  
一瀬 裕子 田中多賀子  
奥野未知慧 高木 清子  
磯部ミツ江 宇田川雄彦 (JTB)  
鈴木 初子